

科目分類	専門職の教育			開講学科	看護学科
科目番号	学年	担当セメスター	区分	単位数	授業時間数
11002	1	後期	必修	2	30
授業科目名 (英文)	病態生理学 (Morbid Physiology)				
担当教員名	○高野海哉／森川鉄平				
授業の概要及び到達目標					
<p>概要</p> <p>看護実践に必要な疾患の成り立ちや様々な症状の原因・病態生理を扱う。腫瘍、炎症、先天異常と遺伝子異常、代謝障害、循環障害、呼吸障害、感染症などについて原因と病態生理を解説する。</p> <p>(到達目標)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・上記の概要で取り上げた症状・疾病について、その原因を理解し説明することができる。</li> <li>・症状や疾病は、正常な人体の構造と機能の異常や破綻によることを理解し、関連させることができる。</li> </ul>					
準備学習等					
<p>(受講する準備 (予習) : 30分)</p> <p>講義は次ページの「授業計画」に沿って行う予定である。下記「テキスト」欄で指定されたテキストや、後半8回(高野担当分)は後半の初回に配布される「講義レジュメ」において、予習として次回予定内容の該当項目を一読し、次回授業内容を把握しておく。また、内容理解に際しては解剖生理学的な知識も必要となるので、次回講義予定の内容に該当する「体の仕組みと働き」の内容も一読する。</p> <p>(受講)</p> <p>講義は授業形式で行われる。各回の授業は進度が早いので欠席すると内容理解が不十分となる可能性が高い。授業を受けた内容はメモを取るなどして記録するようにし、後に復習できるようにする。</p> <p>(受講後の復習 : 30分)</p> <p>復習として、授業で取ったノートを整理しながらテキストの内容を理解することに努める。その際、「体の仕組みと働き」における該当する項目を学習すると理解が深まる。この段階で疑問点が生じた場合は、下記の参考図書などで調べるか、担当教員に質問して問題解決を図る。</p>					
成績評価の方法	筆記試験 (100%)				
テキスト	『医学書院の系統看護学講座 専門基礎4 疾病のなりたちと回復の促進1 病理学』 (高野担当分)「体の仕組みと働き」講義テキスト・(基本を学ぶ看護シリーズ) 2. からだの仕組みと働きを知る(高野海哉・川岸久太郎・草間朋子 著 : 東京化学同人)				
参考図書	<ul style="list-style-type: none"> <li>・(講談社地図帳シリーズ)「からだの地図帳」「病気の地図帳」「健康の地図帳」「こどもの病気の地図帳」「ナースが視る人体」「ナースが視る病気」※</li> <li>・「カラーで学べる病理学」(ヌーヴェルヒロカワ社)※</li> <li>・新体系看護学3「病態と診療の基礎」(メヂカルフレンド社)※</li> </ul>				

備 考	<ul style="list-style-type: none"> <li>・質問等は授業終了後、教室で受け付ける</li> <li>・卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連については、別途明示している各学科の履修系統図をご確認ください。</li> </ul>
授 業 計 画	
<p>(森川担当分)</p> <p>第1回 病気の原因、先天異常と遺伝子異常</p> <p>第2回 代謝障害</p> <p>第3回 循環障害</p> <p>第4回 炎症と免疫、膠原病</p> <p>第5回 感染症</p> <p>第6回 腫瘍</p> <p>第7回 老化と死</p> <p>(高野担当分)</p> <p>第8回 呼吸器系に関連する症状・病態生理①（咳と痰 呼吸困難）</p> <p>第9回 呼吸器系に関連する症状・病態生理②（血液中の酸素と二酸化炭素濃度・呼吸不全）</p> <p>第10回 循環系に関連する症状・病態生理①（出血・梗塞・ショック）</p> <p>第11回 体液に関連する症状・病態生理（むくみ（浮腫）・脱水・電解質異常）</p> <p>第12回 消化器系に関連する症状・病態生理①（食欲・嚥下困難）嘔吐・下痢・便秘</p> <p>第13回 消化器系に関連する症状・病態生理②（嘔吐・下痢・便秘）</p> <p>第14回 運動器系に関連する症状・病態生理（運動麻痺・痙攣）</p> <p>第15回 体温に関連する症状・病態生理（発熱・低体温）</p>	